

今週のメニュー

■トピックス

◇「集まれ塩ビ管スピーカー 関東オフ会 2014」取材

■随想

◇モザンビーク共和国旅行記（9）

ーモザンビーク共和国あれこれ（その1）ー

一般社団法人 日本化学工業協会 若林 康夫

■編集後記

■トピックス

◇「集まれ塩ビ管スピーカー 関東オフ会 2014」取材

今年も、「集まれ塩ビ管スピーカー・関東オフ会 2014」が去る5月11日に横浜市の横浜ラポールで開催されました。[PVC News 6月号 \(No.89\)](#)でもご紹介しましたが、その時の取材に同行し、実際に音を聞き、正直その音色、迫力には圧倒されました。形、大きさも色々ありましたが、小さいものでは直径5cm程度のスピーカーから音がビンビン響いてきます。



オフ会の様子

ここで、塩ビ管スピーカーとそのオフ会について紹介します。

塩ビ管スピーカーは、通常用いるスピーカー・ボックスの代わりに塩ビ管を利用した「共鳴管タイプのスピーカー」の一種です。原理的にはパイプオルガンと同じで、塩ビ管の共鳴効果を生かすことによりオーディオ機器の音質を飛躍的に高めることができるということです。

この塩ビ管スピーカーの生みの親が、千葉県館山市で整骨院を営む谷古宇賢一さんです。たまたまホームセンターで見つけた塩ビ管で試しにスピーカーを作ったところ、外見からは想像もできない素晴らしさに心底びっくりしたそうです。そこで、塩ビ管スピーカーを広めるべく、「集まれ塩ビ管スピーカー」のブログを立ち上げ、集まった仲間と交流しているそうです。



オフ会（インターネットや掲示板、チャットなどのネットワーク上で活動するグループに所属するメンバーやよく出入りする人々が、実際に集まって行う会合のこと。オンラインに対するオフラインから来ている）は、毎年5月に開催しており、全国から毎回20-30名が自作のスピーカーを持ち寄り、持ち時間15分で色々なジャンルの音を聞かせ、自慢する場となっています。中には、Stereo 誌の自作スピーカーコンテストで優秀賞や特別賞を取られた方が何人かいらっしゃるそうです。

写真で見られるように色々なスピーカーがあります。塩ビ管を使うメリットは、もちろん共鳴による音のすばらしさもありますが、比較的安価に製作できること、音色の調整を塩ビ管の長さで調整するので、簡単に切ったり繋げたりできること、デザインにこだわって自由に製作できることなどにあるそうです。



オフ会の様子がブログにアップされています。
紙面では音色の良さをお伝えすることはできませんので、皆さんも是非聞いてみてください。また、興味のある方は是非仲間になって楽しんでいただきたいと思います。

⇒ [集まれ塩ビ管スピーカー](#)

⇒ [関東オフ会 2014 の様子](#)

■ 随想

◇モザンビーク共和国旅行記（9）

－モザンビーク共和国あれこれ（その1）－

一般社団法人 日本化学工業協会 若林 康夫

モザンビーク共和国旅行記も最後になります。今回も見たり聞いたりしたことを、いくつかご紹介しますが、数が多いので2回に分けてお送りします。

医療

モザンビークの医療水準、緊急時の応急処置ならいいのですが、入院・手術になるととてもお勧めはできないとのこと。応急処置が済んだら、一刻も早く隣国、南アフリカか（医療水準はヨーロッパと同等）ヨーロッパに移るべきだそうです。薬局も在庫切れ、有効期限切直前の薬品が多く、希望する薬品を手に入れるのは思うようにいきません。

救急車は警察も消防署も所有していません。病院でも、ごく一部の高級私立病院でしか所有していません。その代り、救急車を専門に派遣・運行する会社があるので、緊急時には、まず、病院に電話をして診察の予約を入れ、次に救急車を派遣・運行会社に電話をして移送を頼みます。

腕のいい医師に診てもらうには、事前の予約は必須、診察までかなり待たされるとか。こんなことをしていたら、手遅れになりそうです (-_-;)

歯科

ヨーロッパから出稼ぎに来ている歯医者さんがかなりおられるそうで、そのような歯科医が勤務している歯科に行くとそれなりの治療が受けられるそうです。

大学病院に行くと学生が治療をするので、行ってはいけないそうです (^_^;)

治療ツアー

モザンビークの外国人向旅行会社の広告です。“南アフリカ、治療の旅”

1週間ほどのツアーらしいのですが、要は医療水準の高い南アフリカに行って歯の治療をするという内容でした。治療をする病院は南アフリカでもトップクラスの病院・医師なので、安心して参加ができるとか。他にも心臓バイパス手術の旅、がん切除手術の旅など、各種治療の手配も行いますとのことでした。

この治療ツアー、もちろん、緊急手配も可能で、その場合、飛行機のチャーター代（片道：モザンビーク→南アフリカ）が日本円で120万円ほど加算されるそうです。

トゥクトゥク（リキシャ）

[中古車の回](#)で書き忘れましたが、庶民の足としてもう一つよく利用されている交通機関がありました。アジア各国でも見られる3輪バイクのタクシーです。モザンビークでは何と呼ぶのか、確認をしなかったのですが、少人数の場合は利用している人が沢山いました。

こちらの料金も全て交渉。地元の人には相場がわかっているのですぐに交渉成立になるようですが、タクシーも含め、旅行者には分かりにくい料金システムです。

フェリー

国土全体が細長く、海に面しているモザンビーク。沖合には領土としての島も沢山あります。有名なのは奴隷の輸出港であり、天正遣欧少年使節団やフランシスコ・ザビエルが日本に向け旅立った、世界遺産「モザンビーク島」です。これらの島に行くにはフェリーを利用することになりますが、このフェリー、完全に過積載状態。

私が利用したフェリー、出航直前に荷物を満載したトラックが、まさに飛び乗ってきました。すると、その重量で喫水線がみるみる下がり、船上に水が被りはじめる状態に。お客さんは慣れたもので、床に置いていた荷物が濡れないよう、高いところに移動したり、頭の上にのせたりしています。フェリーはそのまま普通に発航をしましたが、対岸に着くまで、このままブクブクと沈んでしまうのではないだろうか、気が気ではありませんでした。

携帯電話

モザンビークも携帯電話時代に突入しています。国中、どこにでも携帯電話販売店がありますし、街中では携帯電話料金を支払うためのプリペイドカード売りが沢山います（モザンビークでは日本のような契約ではなく、プリペイド方式の契約が主流です）。

携帯電話の通信会社も数社あり、もちろん、同じ通信会社同士の通話料金が一番安い。また、普通の有線電話にかける時もかける地域によって通信会社毎に料金が異なります。このため、モザンビークでは複数の通信会社のSIMカードを（携帯電話機の中に入れるメモリーカードのようなもので、日本で言えば携帯電話にDoCoMoのカードを入れればDoCoMoの料金が、SoftBankカードを入れればSoftBankの料金が適用になります）持つのが当たり前。電話をかける相手、地域によって一番安い通信会社SIMカードに差替えて、通話料金を節約しているそうです。

携帯電話機はフィーチャーフォン（ガラケー）からスマートフォンにそろそろ変わりつつある状態です。通信会社の競争も激しいようで、中等学校の校門の前では学生に必死になって携帯電話を売り込んでいる通信会社の販売員の姿を沢山見ることができます。

携帯電話の普及に伴い、日本でも同じですが、公衆電話と言うものがほとんど見当たりませんし、あったとしても壊れていました。

インターネット

コンピュータも各家庭に広まりつつあるようで、地方都市でもパソコンショップを見かけます。

モザンビークはポルトガルの影響もあり、街中に電信柱はありません。電気も電話も、全て地中埋設です。現在、あちらこちらで地面を掘り返し、光ファイバーを埋設する作業が行われていましたが、工事を見るとかなりずさん。あんな工事でちゃんと繋がるのだろうかと不安になります。

案の定、通信速度が遅い！ とても光ファイバー回線だとは思えません！

(つづく)

今回は、(10) -モザンビーク共和国あれこれ(その2) -です。

⇒ [バックナンバー](#)

■ 編集後記

最近“2020年までに”、“2020年に向けて”というニュース記事を多く見られるようになりました。ついこの間までは“失われた2020年”という記事ばかりでしたので、日本全体が前向きになった印象を受けます。

“2020年”と言えば東京オリンピックが開催され、それに向けて数多くのインフラ整備などの事業が動き出してくると予想されます。前回のロンドンオリンピックではメインスタジアムをはじめ多くの施設で多くの塩ビ製品が使用され、それが今週終わったばかりのブラジルワールドカップでリユースされているそうです。2020年の東京オリンピックでもインフラ整備に欠かせない塩ビ製品がどのようなところで使われるか楽しみです。(鷹山)

■ 関連リンク

- [メールマガジンバックナンバー](#)
- [メールマガジン登録](#)
- [メールマガジン解除](#)



◆編集責任者 事務局長 高橋 満

■東京都中央区新川 1-4-1

■TEL 03-3297-5601 ■FAX 03-3297-5783

■URL <http://www.vec.gr.jp> ■E-MAIL info@vec.gr.jp